

令和4年度 大台ヶ原の利用に関する協議会
開催概要

■日 時 令和5年2月28日(火) 10:00~12:00

■場 所 橿原市商工経済会館 7階 第3会議室/オンライン(Webex)

■出席者

<大台ヶ原の利用に関する協議会 構成機関>

機関	所属・氏名	会場	オンライン
林野庁近畿中国森林管理局	三重森林管理署 中島 富太郎 地域林政調整官		○
奈良県総務部知事公室	南部東部振興課 松原 永治 課長補佐		○
奈良県水循環・森林・景観環境部	景観自然環境課 稲田 徹 課長補佐		○
	景観自然環境課 田垣内 政信 主任技能員		○
奈良県県土マネジメント部	吉野土木事務所 工務第二課 上田 大輔 係長		○
	吉野土木事務所 用地・管理課 芝田 正昭		○
三重県農林水産部	みどり共生推進課 脇田 安記 主幹兼係長		○
上北山村	企画政策課 山口 能央 課長	○	
川上村	水源地課 玉井 孝明 主任		○
大台町	産業課 福岡 孝太 主事		○
上北山村議会	玉岡 紀生 経済常任委員長	○	
上北山村観光協会	事務局 三橋 直人		○
上北山村商工会	金岩 修平 経営指導員		○
一般社団法人奈良県猟友会 上北山支部	(ご欠席)		
自然を返せ! 関西市民連合	(ご欠席)		
奈良県勤労者山岳連盟	高橋 まどか 自然保護委員長		○
奈良県山岳連盟	柳川 靖夫 副会長	○	
近畿日本鉄道株式会社	大阪統括部運輸部営業課 稲垣 大輔	○	
一般社団法人 奈良県タクシー協会	(ご欠席)		
奈良交通株式会社	乗合事業部 中谷 真吾 課長		○

公益社団法人日本山岳会関西支部	斧田 一陽 自然保護委員長	○	
特定非営利活動法人 森と人のネットワーク・奈良	(ご欠席)		
大台ヶ原パークボランティアの会	(ご欠席)		
一般社団法人 心・湯治館	城内 勲 代表理事	○	
ワーク21上北山	(ご欠席)		
大台・大峯植生談話会	横田 岳人 会長		○
三重県山岳・スポーツクライミング連盟	大台山倶楽部 保田 利博 代表	○	
一般社団法人大阪府山岳連盟	田中 昭男 常務理事・自然環境委員長	○	
一般社団法人ツーリズムかみきた	(ご欠席)		

<環境省近畿地方環境事務所>

機関	所属・氏名	会場	オンライン
近畿地方環境事務所	坂口 隆 統括自然保護企画官	○	
	国立公園課 丸山 永 課長補佐	○	
	自然環境整備課 榎本 和久 課長	○	
	三島 隆史 課長補佐	○	
	森 有希 専門官		○
吉野管理官事務所	鶴飼 匠太 国立公園管理官	○	
	丸毛 絵梨香 生態系保全等専門官	○	
	濱田 菜月 自然保護官補佐	○	

<オブザーバー>

機関	所属・氏名	会場	オンライン
株式会社環境総合テクノス	樋口 高志 マネージャー		○
	樋口 香代 リーダー	○	
大台ヶ原ビジターセンター	福嶋 千草	○	
地域観光プロデュースセンター (持続可能な利用ワーキンググループ委員)	吉見 精二 代表		○
環境設計株式会社	中野 晋 代表取締役	○	
	三尾 尚己	○	

<業務委託者>

機関	所属・氏名	会場	オンライン
株式会社スペースビジョン研究所	宮前 保子 取締役	○	
	安場 浩一郎 主任研究員	○	
	岸本 聖矢 研究員	○	

■議事

- (1) 大台ヶ原の利用動向等に係る報告
- (2) 令和4年度事業実施結果報告（構成機関からの取組報告含む）
- (3) 令和5年度西大台利用調整地区の運用計画について【協議事項】
- (4) 大台ヶ原におけるツキノワグマの出没対応について
- (5) 大台ヶ原周回線道路（歩道）の改修について
- (6) その他

■配付資料

- ・議事次第
- ・出席者名簿
- ・資料1 大台ヶ原の利用動向に関する調査結果
- ・資料2 西大台利用調整地区の利用者に対する意見聴取の結果
- ・資料3 大台ヶ原における適正利用推進上の課題
- ・資料4 令和4年度業務実施結果報告（持続可能な利用の推進について）
- ・資料5 令和5年度西大台利用調整地区の運用計画（案）
- ・資料6 大台ヶ原におけるツキノワグマの出没対応について
- ・資料7 大台ヶ原周回線道路（歩道）の改修に係る基本設計について
- ・参考資料1 令和4年度大杉谷登山道の利用状況等について
- ・参考資料2 令和5年度西大台利用調整地区 利用調整カレンダー
- ・参考資料3 西大台認定手続におけるオンライン決済のフロー図

令和4年度 大台ヶ原の利用に関する協議会
議事概要

(1) 大台ヶ原の利用動向等に係る報告

・令和4年度の大台ヶ原及び西大台利用調整地区の利用状況や経年変化、西大台利用調整地区の利用者に対する意見聴取の結果、大台ヶ原における適正利用推進上の課題について、事務局より報告した。

◆主な質問・意見

・大台ヶ原の利用動向に関して、外国人の利用状況に関する実態把握が必要ではないか。(日本山岳会関西支部)

→訪日外国人の受け入れに関しては、レクチャーの多言語化や標識の多言語化などに取り組んでいる所である。今後は、訪日外国人の利用状況についても把握できるよう検討したい。(事務局)

・新型コロナの影響で、一時期は外国人の利用は殆ど無かったが、今年度は、中国人などの外国人の利用者が増加してきている。外国人向けのレクチャーやパンフレット類が用意されているので、それらを使って対応している。(大台ヶ原ビジターセンター)

(2) 令和4年度事業実施結果報告

・令和4年度の大台ヶ原における持続可能な利用の推進に係る事業実施結果について、事務局より報告した。

・上北山村より、令和4年度の上北山村による大台ヶ原の利用に係る取組について報告があった。

・奈良県吉野土木事務所より、令和5年度における大台ヶ原ドライブウェイの工事の予定について報告があった。

・三重県大台町より、令和4年度の大杉谷登山道の利用状況等について報告があった。

◆主な質問・意見

・質問・意見は特になかった。

(3) 令和5年度西大台利用調整地区の運用計画について

・令和5年度の西大台利用調整地区の運用計画案について、事務局より説明を行った。本協議会の中で合意を得て、運用計画は原案通りで決定となった。

◆主な質問・意見

・例年、4月下旬から6月初頭までが春期の利用集中期として設定されているが、この時期は、植物の芽生えや鳥類の繁殖の時期に当たり、生物多様性の観点からみて、この時期に多くの利用者を集めるのは問題があると考ええる。来年度以降、利用集中期を設定する際には、この点も加味して、この時期を利用集中期とするべきか検討してほしい。(大台・大峯植生談話会)

→利用集中期の設定に関しては、長期的なモニタリングデータを踏まえて、植生の動態を分析しながら、利用動向の変化を踏まえて必要があれば利用集中期の見直しも含めて検討を行いたいと考えている。また、レクチャーの中で西大台の利用の仕方をどのように伝えていくかを含めて、長期的な検討課題としたい。(事務局)

(4) 大台ヶ原におけるツキノワグマの出没対応について

・令和4年度の大台ヶ原におけるツキノワグマの出没の状況、及びそれに対する対応等について、事務局より説明した。

◆主な質問・意見

・クマの目撃数が増えているのは、生息頭数が増えているからか。(三重県山岳スポーツクライミング連盟)

→紀伊半島全体としては、頭数が増加していると考えられるが、今シーズンの大台ヶ原の事例に関しては、頭数の増加というより、餌資源の状況により生息密度が集中したことが原因ではないかと考えられる。(事務局)

・駐車場で夜間に天体観測等をしている人の中に、食事をしている人が多いため、クマの出没に影響しているのではないかと考える。また、夜間に東大台を利用していたが、今後は避けた方がよいか。(三重県山岳スポーツクライミング連盟)

→駐車場で調理行為については、今年度もポスター等で自粛を依頼してきたが、今後も引き続き注意喚起していく予定である。また夜間利用に関しても、危険性が高いため自粛してほしいという注意喚起を続ける予定である。(事務局)

・クマの駆除を行う考えはあるか。(三重県山岳スポーツクライミング連盟)

→今年度の状況をみる限り、大台ヶ原の場合、クマが人の食べ物を求めて出没している可能性は低いため、現時点ではその必要性は低いと考えられる。引き続きクマの状況をみながらリスクレベルを判断し、必要な対応を検討したい。(事務局)

・大台ヶ原におけるクマの出没に関しては、利用者が大台ヶ原に来る前に情報を得て、対策を準備した上で来て貰う必要がある。例えば、大台ヶ原のポスターや西大台利用調整地区のパンフレットにクマの出没情報を掲載したり、新聞などに情報を掲載して貰うなどの対策が考えられる。(奈良県勤労者山岳連盟)

→今年度も公共交通機関の協力により周知を図ったが、来年度以降も情報発信の方法を検討し、周知を図っていきたい。(事務局)

(5) 大台ヶ原周回線道路(歩道)の改修について

・大台ヶ原周回線道路(歩道)の改修の基本方針、今後の進め方等について、事務局より説明した。

◆主な質問・意見

・前回の整備時には、協議会のメンバーも参加して現地確認を行い、意見交換をしたが、今回も実施する予定か。また、歩道を保全するためには、排水に関する対策が必要だと思うが、その点について検討を行っているか。(日本山岳会関西支部)

→現地確認については、来年度に施設の整備効果に関する検証を行った上で、実施設計に入る前の段階で行う予定である。また排水対策は非常に重要と認識している。正木ヶ原・尾鷲辻間の石階段は近自然工法で施工されており、排水対策として効果を発揮しているので、その点も参考にしながら、他の区間についても改修方法を検討したい。(事務局)

・「自然を返せ!関西市民連合」からの事前の意見として、現在の木道は地道に戻すべき、尾鷲辻・正木ヶ原間の石階段は、施工当時と同様な近自然工法で改修すべきといった意見が紹介され

た。

→木道全てを地道に戻すことについては、東大台は利用者が多く、また木道には植生回復の目的もあるため難しいと考える。来年度の調査結果を踏まえ、木道を撤去しても影響が少ないと判断できる箇所については地道に戻すなど、場所ごとに改修の内容を検討したい。(事務局)

(6) その他

◆主な質問・意見

- ・近年、エコツーリズムに対する社会的な関心が高まっており、エコツーリズム的な観点からの大台ヶ原の利用がもっと広がると良いと考える。この協議会も、地域でソフト的な活動に取り組む団体がもっと参加して、議論できる場になると良いと思う。(持続可能な利用 WG・吉見委員)
 - ・今回の説明の中で、大台ヶ原での SDGs に関わる取組があまり触れられていなかったが、そうした点についての検討は行っているか。(日本山岳会関西支部)
- 環境教育に関する検討の中で、SDGs と大台ヶ原の環境資源との対応関係について整理を行っており、今後もこうした検討を行っていく予定である。また、同時に受け皿となりうるガイドプログラムの開発等に関しては、登録ガイドのスキルアップ講習会などを通じた対応も必要となる。(事務局)
- ・SDGs に関しては、外国人の関心が高い。今後、大台ヶ原においても外国人の利用が増えると考えられるので、インバウンド対応ができるガイドを増やしていくことも課題である。(持続可能な利用 WG・吉見委員)
- 環境省でも、サステイナブルツーリズムに関するモニターツアーなどの取組を行っており、今後はそうした知見も踏まえて、ご指摘の点についても検討していきたい。(事務局)
- ・SDGs やワーケーションなど、環境省には多くの施策があるため、それらの施策を集約して協議会の場で情報提供し、大台ヶ原でどのような展開が可能かアイデアを出し合えると良い。また SDGs に関しては、自然だけでなく、トイレの問題やリサイクルなど幅広い課題が含まれるので、そうした点についても考えていく必要がある。例えば、登録ガイドを軸として SDGs の取組を進めるのであれば、登録ガイドを対象として SDGs に関する講習を行うといった事が考えられる。(大台・大峯植生談話会)